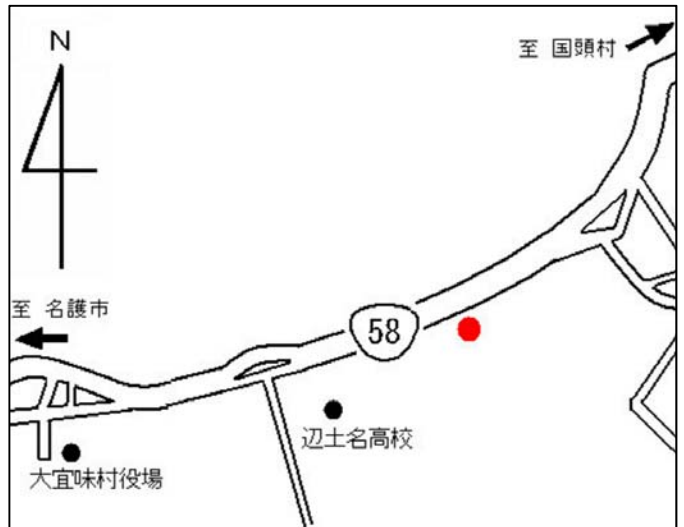


喜如嘉のミフクラギ



認定番号 54-1

樹種名	ミフクラギ	科名	キョウチクトウ科	方言名	ミーフックワー	学名	<i>Cerbera manghas</i> L.						
形状・寸法	樹高 8.6 m	胸高周囲	1.4 m	根本周囲	1.5 m	樹幹占有面積	10.7 m ²						
	枝下高 4.3 m	枝張 東 1.4 m	西 2.1 m	南 2.1 m	北 1.8 m	最大樹冠幅	4.0 m						
通称	夫婦木、友達の木		樹齢 75年以上 (推定)										
所在地	大宜味村喜如嘉 国道58号線沿い					所有者	①国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 ⑨街路 10 その他 ()					状況	①単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 その他 ⑦なし					気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 ⑤道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()						平均気温(°C)	16.7	16.1	18.1	22.7	25.3	28.1
土地傾斜	①平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:					地点:名護 年度:2016年 (気象庁HP)	降水量(mm)	237.0	123.0	212	357.0	124.5	309.5
	1 堆積土 2 切り土 ③盛土 4 客土 5 その他 ()						平均風速(m/s)	4.0	4.5	3.7	3.6	3.2	3.5
土壌	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト ⑩埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他					風向	NNE	S	S	NNE	S	WNW	
	①砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 ③埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない					月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
基岩・母材	1 堆積土 2 切り土 ③盛土 4 客土 5 その他 ()					潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける ⑤強く受ける(特記)						
	1 堆積土 2 切り土 ③盛土 4 客土 5 その他 ()						日照条件	①良い 2 普通 3 やや不良 4 不良					
地形	①平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:					周辺樹木の影響	①なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻(状況)						
	①砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 ③埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない					周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 ②固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし						
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ②疎 3 なし 低木 1 密生 ②疎 3 なし					周辺樹木との関係	①影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

管理状況	1 柵 a 有 ③無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m ²) 設置年
	2 支柱 ③有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 ④枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ③無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ③無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 ③無 7 避雷針 a 有 ③無 8 定期的な草刈・掃除 ③有 b 無 9 その他
過去の治療歴と内容	無し
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 ⑥不明
視認性	①遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)
特記事項	1 動物生息 a 有 ③無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 ③無 (有の場合植物の種類) 3 見学・参観者 a 有 ③無 4 その他 観光スポット

地上部の衰退度判定（認定番号54-1）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11(評価項目) = 1.36

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

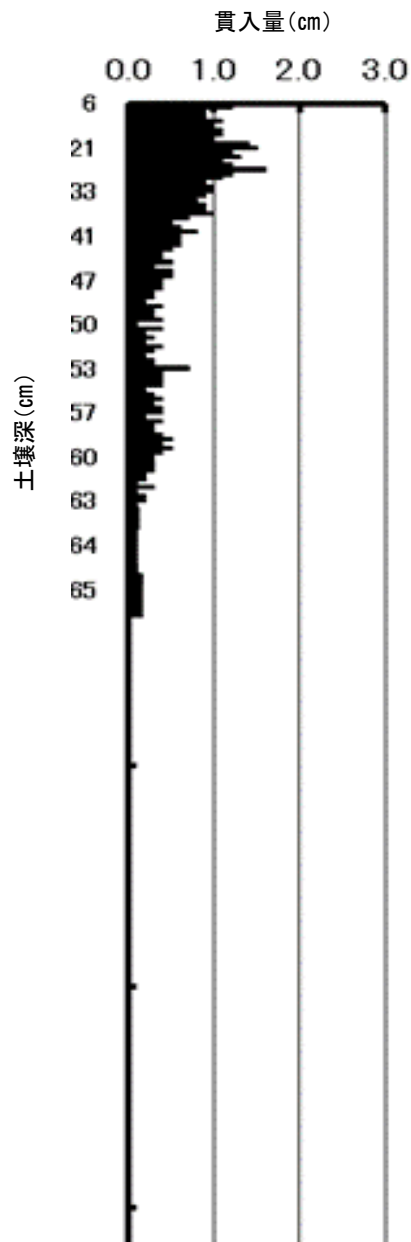
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壤調査結果（認定番号 54-1）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR3/3	0-3	—	砂壤土	8.6	13.4
II	10YR2/3	3-10	—	砂壤土		
III	10YR4/5	10-20	—	埴壤土		
IV	10YR4/4	20-27	—	埴壤土		
V	10YR4/5	27-	カベ状	埴土		

土壤貫入量結果



喜如嘉のミフクラギ

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・植枡が狭く、土壌深も 70cm 弱と浅い。 ・深さ 40 cm までの物理性は良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植枡の拡張を検討する。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・露出根、ルートカラーは見られない。深植えの状態となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・深植えの状態となっているが、支持力との関係もあるので現状維持とし、対応は無し。
	<ul style="list-style-type: none"> ・フクギに接する地際からオキナワキョウチクトウのヒコバエが発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除去を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地際部に縦 30 cm、横 35 cm の傷があり、地表下 20 cm に達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・道路側高さ 1m に縦 10 cm、横 3 cm、深さ 3 cm の木部に達する傷、高さ 1.3m に縦 15 cm、横 7 cm の傷があるが、巻き込みで塞がれつつある。 ・高さ 1.6m に縦 16 cm、横 4 cm、深さ 10 cm の傷があり、木部深くに達する。 ・1.8m に縦 20 cm、横 7 cm にわたり傷があり、木部が露出しているが、腐朽の進行は見られない。 ・南側 0.7m に 18 cm、横 6 cm の木部に達する傷がある。 ・西側 1.3m に縦 7 cm、横 10 cm、深さ 9 cm の開口部があり、腐朽が認められる。 ・北西側高さ 2.9m、3.5m にそれぞれ縦 25 cm、横 40 cm、縦 30 cm、横 40 cm の擦れによる傷があり、木部に達する。 ・支柱の食い込みと道路工事に伴う傷など、人による傷が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱は機能していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支柱の撤去を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・幹下部にグレーチング板が接触している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーチング板の移設を検討する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・潮風による枝先の枯れが認められる。 ・樹皮の活力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強風対策のため枝の伸びすぎに留意する必要があるが、現時点では必要無く、対応は無し。
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・葉量はやや疎であるが梢頭部においては量、色、大きさとも良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に夏季には散水を行うことが重要と考える。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・海沿いの街路樹という過酷な環境に生育する当該樹木は、特に夏季には植枡の狭隘さとアスファルトの輻射熱等で水ストレスを起こしやすいため、散水等の管理が重要と考える。 	

